

沖縄における1960年チリ地震津波の現地調査(総括)

琉球大学理学部* 加藤祐三・謝花恭子

辺土名高校 城間美佳

関応用地理研究所 渡辺康志

The Chilean Tsunami of 1960 in the Okinawa Islands (summary)

Yuzo KATO, Kyoko JAHANA

Faculty of Science, University of the Ryukyus, Nishihara, Okinawa, 903-0213 Japan

Mika SHIROMA

Hentona High School, Ogimi, Okinawa, 905-1300 Japan

Yasushi WATANABE

Institute for Applied Geography, Inc., Nishihara, Okinawa, 903-0129 Japan

§ 1. はじめに

1960年のチリ地震津波では沖縄で3人の死者が発生した。当時沖縄は米政権下にあり、琉球气象台(1960)が津波の調査を行ったが調査態勢が不十分であったため結果として広範な未調査部分を残した。たまたま琉球大学で非常勤講師をしていた種子田(1961)による報告があるが、琉球气象台(1960)との重複が多い。チリ津波合同調査班(1961)の調査は奄美を南限とし“外国”である沖縄県には及んでいないがTaneda(1961)が寄稿されている。これは種子田(1961)の要約である。沖縄の研究機関には関係する専門分野が欠如していたために調査を行っていない。津波から40年以上経過した現在、体験者が死亡ないし高齢化して少なくなりつつあるうえ、証拠になる建築物等が老朽化して建て直されたり、土木工事で当時の地形が消失しつつあり調査が急がれていた。こうした中で1999年から加藤を中心にチリ地震津波現地調査を実施してきた[加藤・謝花(2001)]。これが一段落したので報告する。

§ 2. 調査結果

調査は118の集落で行い、このうちの85の集落で津波に関する何らかの情報が得られた。1

つの集落で何人から聞いても異常なしの回答しか得られなかった場合は1件として数えたとき、聞き取り件数は計352である。津波高の最高は4.5mより幾分高く、4mを超えた地点は唯一死者が出た西海岸の真喜屋を含め東西両岸にあり、3mを超えた地点は広範囲にわたる(図1)。これらは従来値より大きく、日本の他地域と比較すると三陸地方に次ぐ津波高である。波は引きで始まったとの証言が多数得られ、逆の証言はなかった。

§ 3. 津波防災

津波情報を聞いて、避難せずに海に見に行ったとの証言がかなりあった。幸いこれらは被害に結びつかなかったが津波防災上の1つの教訓となり、科学的な防災教育の必要性を改めて示している。海に見に行ったという証言の例を最後に示しておく。

◎津波と聞いて見に行くときみるみる海が持ち上がった。波に流されてガジュマルの根にぶつかったが木にしがみついて助かった。◎浜に津波を見に行こうとしたら波が迫って来たので、慌ててフクギの木によじ登ってあやうく助かった。◎港のすぐ近くに住む人の「津波だ」という大声を聞き海岸まで見に行った。◎津波を見に自転車で浜へ降りて行くと満潮のはずが潮が引いていた。そのあと潮の高まりに気づき自転車で必死に逃げたが追いつかれて濡れてしまった。

* 〒903-0213 沖縄県西原町千原

電子メール: kato-yuzo@sci.u-ryukyu.ac.jp

謝辞

調査に当たり以下の琉球大学学生の協力を得た。理学部の北川宙・知念正昭・当山珠代・渡慶次聡・松岡俊吾、法文学部の石原咲子・知念夏海の諸君。本研究の一部は内閣府沖縄振興局委託により実施した。

文献

加藤祐三・謝花恭子, 2001, 沖縄におけるチリ地震津波(1960)の現地調査, 歴史地震, 17, 127-128.

種子田定勝, 1961, チリ一津波の沖縄での状況, 九大理研究報告, 5(4), 165 - 180.

Taneda, S., 1961, "Chile Tsunami" in the Okinawa Islands. 77-81. (1960年5月24日チリ地震津波に関する論文及び報告, 丸善, 397pp.)

チリ津波合同調査班, 1961, 1960年5月24日チリ地震津波に関する論文及び報告, 丸善, 397pp.

琉球気象台, 1960, 琉球に於けるチリ津波調査報告, 67pp.

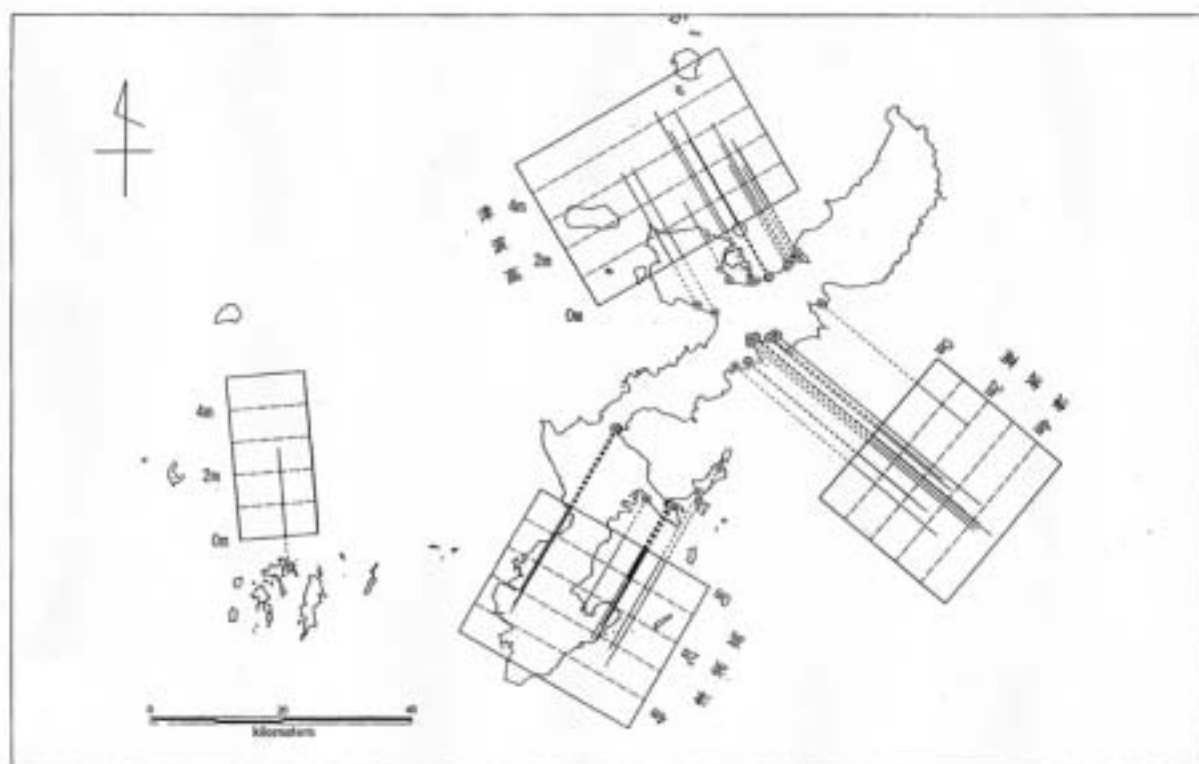


図1. 沖縄群島での1960年チリ地震津波の津波高.